

第59回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：平成29年5月29日（月） 10:00-11:00

2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

葛西委員長、松井委員長代理、遠藤委員、後藤委員、中須賀委員、山川委員、山崎委員

(2) 政府側

宇宙開発戦略推進事務局 高田事務局長、佐伯審議官、佐藤参事官、高見参事官、松井参事官、守山参事官、行松参事官

(3) 関係省庁

外務省総合外交政策局 飯島参事官、齋藤宇宙室長

4. 議事要旨

(1) 「宇宙産業ビジョン2030」について

宇宙開発戦略推進事務局より説明を行い、本内容を宇宙政策委員会として取りまとめることを了承した。委員からは以下の様な意見があった。

- 本ビジョンは「宇宙産業が非宇宙をけん引する」ことを柱の1つとする点が特徴である。このような考えを海外にもアピールしていくことが必要である。
- 「宇宙は重要なデータの提供源」という点について、これまでは宇宙利用に詳しい専門家中心の利用だったが今後はAI等を活用して拡大していくことが重要である。
- 新たな事業展開へのリスクマネー供給が重要である。事業化支援も含め環境整備をしっかりと進めてもらいたい。
- 「キーとなる部品コンポーネントの供給体制の改善」について、企業の力の衰えが懸念される中で具体的に推進することが重要である。またシステムメーカーの技術力の維持と外注化のバランスも重要である。

(2) 中間取りまとめについて

宇宙開発戦略推進事務局より説明を行った。委員からは以下の様な意見があった。

- 宇宙輸送の国際競争力の維持を強調する必要がある。
- 通信機能の技術開発の推進も極めて重要である。
- 海外展開タスクフォースの役割が重要である。特に人材育成に関するニーズが高く、これに対応する体制の構築が重要である。
- 安保分野での宇宙アセットの活用推進が重要である。

(3) 宇宙に関する包括的日米対話について

外務省より説明を行った。委員からは以下の様な意見、質問があった。

(以下、○委員からの意見、質問、●事務局からの回答)

- 米国の「国家宇宙会議」設置に向けた検討状況はどうか。
- 制度的な検討を行っているところである。
- 宇宙交通管理の米国の取り組みについての状況はどうか。
- 連邦航空局 (FAA) において制度的な検討を行っている。

以上